

がん臨床研究の支援について

がん臨床研究の支援について

がん対策情報センター臨床試験・診療支援部 福田治彦

I. がん治療開発の特徴

- ・ 他の疾患領域とは異なり、がんでは多くのがん種に対する標準治療が、手術・放射線治療・薬物療法を組み合わせる「集学的治療」であり、がん患者によりよい治療を提供するためには集学的治療の治療開発が不可欠である（図 1）。
- ・ 抗がん剤の製造販売承認申請ならびに販売承認後の再審査申請の目的で行われる、製薬企業スポンサーの治験ならびに販売承認後臨床試験は、単剤もしくは併用化学療法の臨床試験に限られており、集学的治療の開発は研究者主導臨床試験として行われなければならない（図 2）。

II. 米国のがん治療開発体制

- ・ 第二次大戦後より、「国」が抗がん剤を直接開発してきた米国においては、1950年代から、主に単施設の第Ⅰ相試験～第Ⅱ相試験を行い早期治療開発を担ってきた「NCI-sponsored Cancer Center」と、集学的治療の多施設共同第Ⅱ相試験～第Ⅲ相試験を行い後期治療開発を担ってきた共同研究グループ（Cooperative Group）が整備され、50年にわたって研究者主導・国家主導による治療開発が効率的・精力的になされてきた。これらの組織およびそれらが行う臨床試験は、国家機関であるNCIによる統括・調整・支援を受けている（図 3）。

III. 日本の現状と JCOG（Japan Clinical Oncology Group）

- ・ 一方、日本では、米国のような組織整備はなされてこなかった。1990年代になって、厚生省ががん研究助成金指定研究「固形がんの集学的治療の研究」班（主任研究者下山正徳）を中心として「日本臨床腫瘍研究グループ：Japan Clinical Oncology Group（JCOG）」が組織され、プロトコール審査・定期モニタリング・副作用報告・施設訪問監査等、科学性・倫理性を担保する国際標準の臨床試験方法論に基づく体制を整備し、2000年代には国際的に認められる臨床試験のエビデンスを発信できるようになった。
- ・ JCOGは2007年現在、厚生労働省の33の研究班の任意の集合体であり、中央機構である「データセンター」と「運営事務局」を臨床試験・診療支援部とNPO法人「がん臨床研究機構」が共同で運営している。登録中25試験、準備中20試験を含む計約90試験を管理している（図 4）。
- ・ JCOG参加施設は医療機関単位で約200病院、診療科単位で約400であり、2007年6月現在、がん診療連携拠点病院の約3割がJCOGに参加、逆にJCOG参加医療機関の半数が拠点病院。

IV. 目指すべき将来像とがん診療連携拠点病院に期待される役割

- ・ 現在、臨床試験・診療支援部はJCOGの中央機構の運営のみで手一杯であるが、人材育成を通じて、将来的（5～10年後）には米国NCIのようにCooperative Groupを統括・支援する役割を担うべきと考える。日米の人口比を考慮すると、日本全体でJCOGのような成人腫瘍のグループが2～3、小児がんの全国グループ1つが組織されることが望ましい（図 5）。
- ・ がん診療連携拠点病院におけるがん診療の均てん化の最優先事項は各がん種に対する標準治療を行えることであり、臨床試験への参画は必須ではない。実際、米国でも外科医師会によるがん診療認定施設のうち、臨床試験への参加が義務づけられているのは上位カテゴリーに分類される6割の病院のみである。しかし、がん治療に完成されたものはなく、常に臨床試験により進歩させていくべきものであり、「In oncology, gold standard of treatment is a clinical trials」と言われるように、がん診療においては臨床試験への参加は患者への最善の治療の提供に他ならない。
- ・ がん診療連携拠点病院におかれては、倫理審査委員会、（公的研究を支援する）臨床試験管理室、CRCの公的研究支援等の体制を整備して、厚生労働省の研究班等による研究者主導臨床試験への参加を推進いただきたい。ただし、すべてのがん診療連携拠点病院が臨床試験に常時参加する体制は考えておらず、科学性・倫理性確保の観点からある程度の制限は必要であり、将来的には「臨床試験施設認定」制度を設ける必要があると考えている。

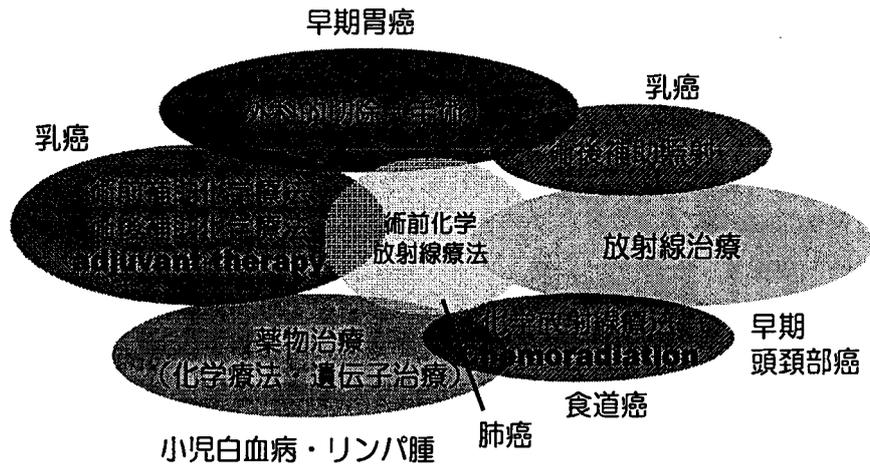


図1：がん治療の特徴－集学的治療

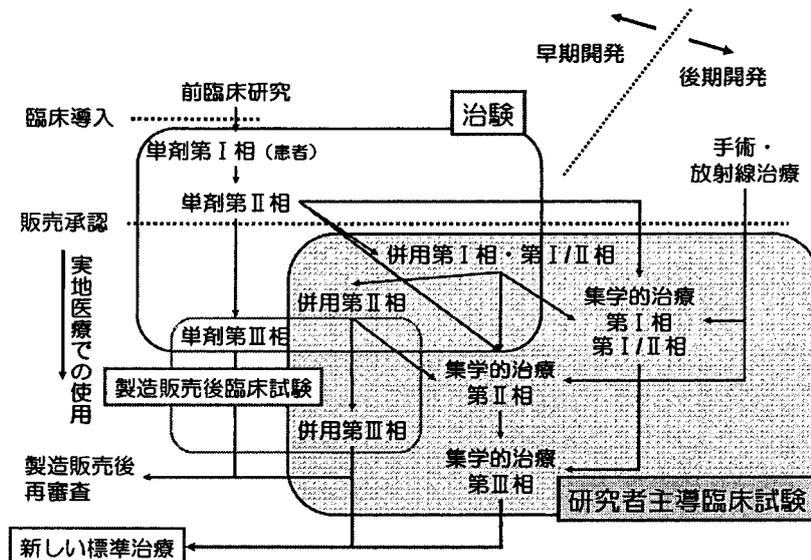


図2：治療開発のための臨床試験全体像

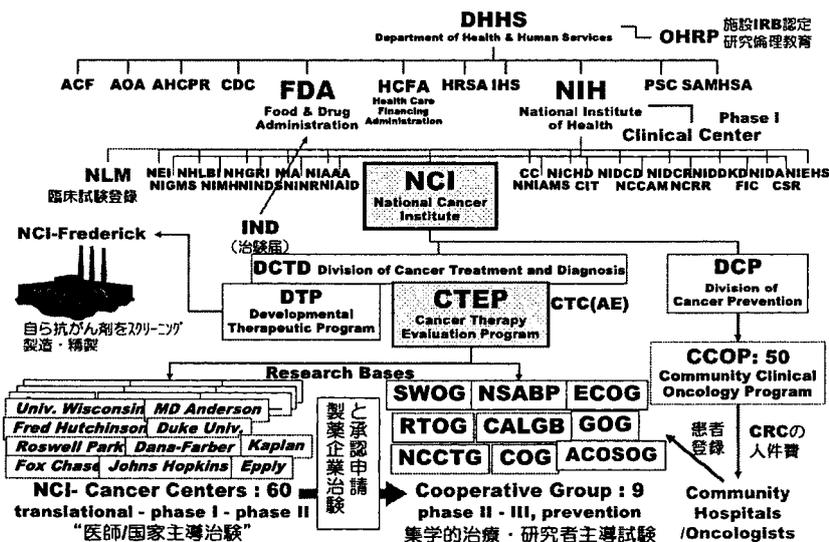


図3：米国 NCI の体制

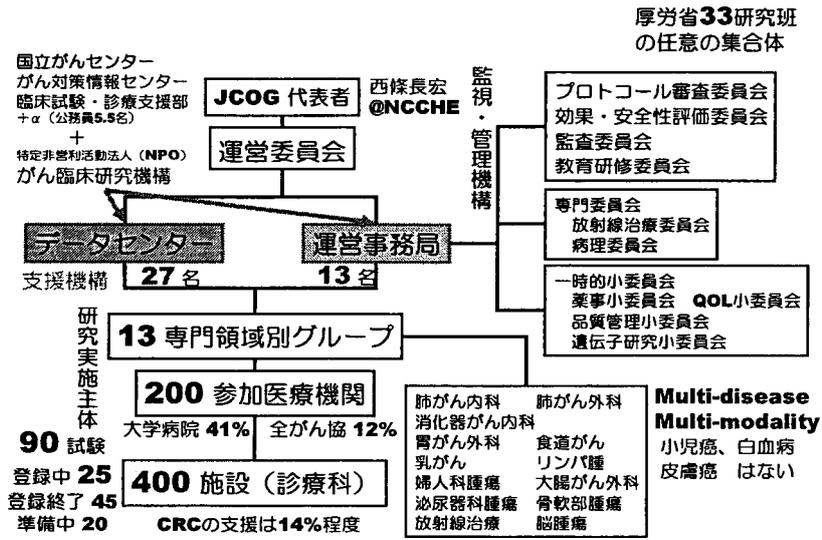


図4：JCOGの機構

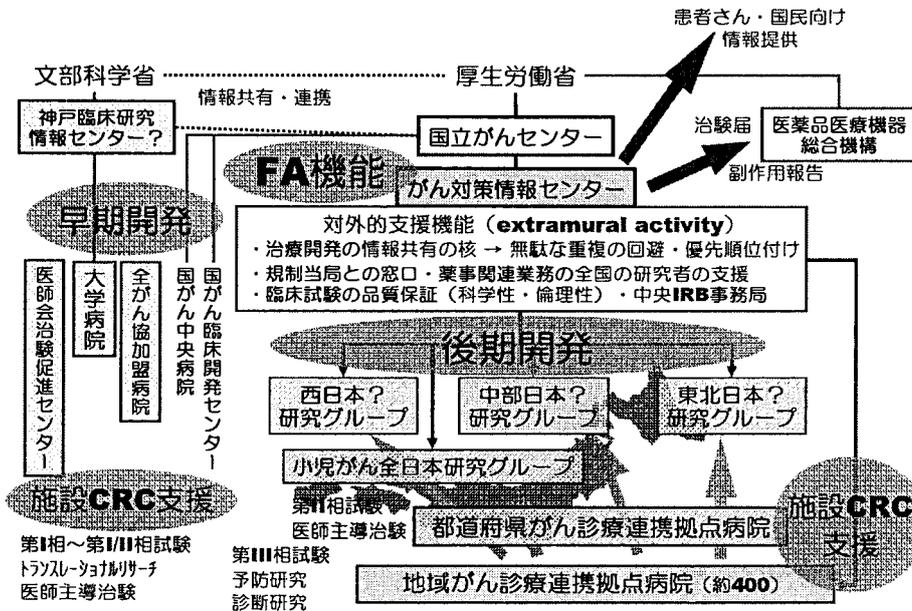


図5：治療開発の役割分担の可能性

平成19年度厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん研究事業)採択課題一覧

<継続課題>

【一般公募型】

No.	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
1	18	20	津金 昌一郎	国立がんセンター がん予防・検診研究センター 予防研究部	部長	生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究
2	18	20	蓮藤 治	国立保健医療科学院 生活環境部	環境化学室長	たばこ規制枠組条約に基づく有害化学物質等の新しい国際標準化試験法に関する研究
3	18	20	斎藤 博	国立がんセンター がん予防・検診研究センター 検診技術開発部	部長	標準的検診法と精度管理や医療経済的効果に関する研究
4	18	20	野守 裕明	熊本大学大学院 医学薬学研究部 呼吸器外科	教授	肺腺癌の診断および悪性度予測のためのAcetate-PETの臨床的研究
5	18	20	斎藤 豊	国立がんセンター中央病院 内視鏡部	医長	新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する研究
6	18	20	山田 哲司	国立がんセンター研究所化学療法部・腫瘍プロテオミクスプロジェクト	部長(厚生労働技官)・プロジェクトリーダー	がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発
7	18	20	戸井 雅和	東京都立駒込病院 臨床試験科・外科	専門参事(臨床試験科)・外科部長	バイオマーカーを導入した原発性乳癌の集学的治療アルゴリズムの構築と意思決定過程の定式化に関する研究
8	18	20	成田 善孝	国立がんセンター中央病院 放射線治療部 頭頸・胸部放射線治療室	医長	希少がん(悪性脳腫瘍)の個別適正化治療のためのTRI(Translational Research Informatics)システムの構築
9	18	20	北村 俊雄	東京大学 医科学研究所 細胞療法分野	教授	レトロウイルス技術による癌抗原の細胞表面上カタログ化と癌の診断治療への応用
10	18	20	祖父江 友孝	国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部	部長	がん罹患・死亡動向の実態把握の研究
11	18	20	斎藤 英昭	杏林大学医学部 医療管理学	教授・副院長	社会学・心理学等との連携による国民のリテラシー向上と患者の納得形成に関する研究
12	18	20	中田 善規	帝京大学医学部・医療情報システム研究センター	教授・センター長	情報工学等の連携による国民・患者のリテラシー向上に関する研究

<新規課題>

【一般公募型】

No.	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
13	19	21	横田 淳	国立がんセンター研究所 生物学部	部長	網羅的なゲノム異常解析に基づく多段階発がん過程並びに臨床病態の分子基盤の解明とその臨床応用に関する研究
14	19	21	牛島 俊和	国立がんセンター研究所 発がん研究部	部長	ヒト多段階発がん過程におけるエピジェネティックな異常の網羅的解明と臨床応用に関する研究
15	19	21	中釜 斉	国立がんセンター研究所	副所長	疾患モデル動物を用いた環境発がんの初期発生過程及び感受性要因の解明とその臨床応用に関する研究
16	19	21	安井 弥	広島大学大学院 医歯薬学総合研究科	教授	放射線障害に基づく固形がん発生の分子機構の解明とその予防・治療への応用に関する研究
17	19	21	立松 正衛	茨城県がんセンター研究所	副所長 兼 部長	ヒト腫瘍の発生・発育・進展に関わる分子病態の解明とその臨床応用
18	19	21	中川原 章	千葉県がんセンター研究局	研究局長	ゲノム情報に基づいた固形発がん発がん・進展に関連する新規遺伝子の同定およびその機能的重畳の解明と臨床応用に関する研究
19	19	21	吉田 輝彦	国立がんセンター研究所 腫瘍ゲノム解析・情報研究部	部長	ゲノム・遺伝子解析情報に基づく診断・予防法開発及び分子標的探索と、免疫遺伝子治療の臨床開発に関する研究
20	19	21	落合 淳志	国立がんセンター東病院 臨床開発センター臨床腫瘍病理部	部長	がん病理・病態学的特性の分子基盤の解明とそれに基づく診断・治療法の開発に関する研究
21	19	21	北林 一生	国立がんセンター研究所 分子腫瘍学部	部長	ヒトがんで高頻度に変異・発現亢進・活性化している遺伝子を標的とした新たな治療法の開発に関する研究
22	19	21	清河 信敬	国立成育医療センター研究所 発生・分化研究部	部長	難治性小児がんの臨床的特性に関する分子情報の体系的解析と、その知見に基づく診断治療法の開発に関する研究
23	19	21	佐藤 靖史	東北大学 加齢医学研究所	教授	血管新生とリンパ管新生の同時制御による制癌法の確立
24	19	21	後藤 典子	東京大学 医科学研究所	助教授	システム生物学的方法論による癌のバイオマーカー及び分子標的の探索
25	19	21	若林 敬二	国立がんセンター研究所	所長	がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究
26	19	21	神田 忠仁	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター	センター長	ウイルスを標的とする発がん予防の研究
27	19	21	中村 正和	大阪府立健康科学センター 健康生活推進部	部長	効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究
28	19	21	田中 憲一	新潟大学 教育研究院医歯学系	教授	遺伝子不安定性の機能解析及び遺伝子変異推測モデルの構築による乳癌卵巣癌ハイリスクキャリアーの同定と発症予防の確立
29	19	21	森山 紀之	国立がんセンター がん予防・検診研究センター	センター長	診断用機器および診断方法の開発に基づいたがん診断能向上に関する研究
30	19	21	門田 守人	大阪大学 医学系研究科	教授	消化器がん個別化医療におけるファンクショナルゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクスの臨床応用と治療体制の確立
31	19	21	中山 富雄	大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター調査部	疫学課・参事	革新的な診断技術を用いたこれらの肺がん検診手法の確立に関する研究
32	19	21	深尾 彰	山形大学大学院 医学系研究科 生命環境医科学専攻 公衆衛生学講座	教授	新たな胃がん検診システムに必要な検診方法の開発とその有効性評価に関する研究
33	19	21	間野 博行	自治医科大学 医学部 ゲノム機能研究部	教授	DNAチップによる急性白血球の新規分類法提案
34	19	21	金子 安比古	埼玉県立がんセンター 臨床腫瘍研究所	研究所長	癌の新しい診断技術の開発と治療効果予測の研究
35	19	21	西條 長宏	国立がんセンター東病院	副院長	がん治療のための革新的新技術の開発に関する総合的な研究
36	19	21	田村 友秀	国立がんセンター中央病院 総合病棟部	部長	新しい薬物療法の導入とその最適化に関する研究
37	19	21	松村 保広	国立がんセンター東病院 臨床開発センターがん治療開発部	部長	新戦略に基づく抗がん剤の開発に関する研究
38	19	21	葛島 清隆	茨城県がんセンター研究所 腫瘍免疫学部	部長	特異的細胞性免疫の活性化による新規がん治療の開発研究
39	19	21	小林 寿光	国立がんセンター がん予防・検診研究センター検診技術開発部	室長	早期胃がん内視鏡切除用磁気アンカー機器装置の臨床標準化装置の開発に関する研究
40	19	21	藤原 俊義	岡山大学医学部・歯学部附属病院 遺伝子・細胞治療センター	助教授・副センター長	放射線感受性ナノバイオ・ウイルス製剤の開発と難治性固形癌に対する臨床応用の検討
41	19	21	小越 健一郎	鹿児島大学大学院 医学部総合研究科 細胞生物物理学	教授	増殖型ベクターと幹細胞のオリジナル技術による革新的な癌遺伝子治療法の開発
42	19	21	江角 浩安	国立がんセンター東病院	院長	QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究
43	19	21	内富 篤介	国立がんセンター東病院 臨床開発センター精神腫瘍学開発部	部長	QOLの向上のための各種患者支援プログラムの開発に関する研究
44	19	21	山口 達	静岡県立静岡がんセンター	総長	がん生存者(Cancer survivor)のQOL向上に有効な医療資源の構築研究
45	19	21	濃沼 信夫	東北大学大学院 医学系研究科	教授	がんの医療経済的解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究
46	19	21	若尾 文彦	国立がんセンター中央病院 放射線診断部	厚生労働技官 医長	患者・家族・国民に役立つ情報提供のためのがん情報データベースや医療機関データベースの構築に関する研究
47	19	21	高山 智子	国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部	診療実態 調査室 室長	患者・家族・国民の視点に立った適切ながん情報提供サービスのあり方に関する研究
48	19	21	西本 寛	国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部	院内がん登録室長	院内がん登録の標準化と普及に関する研究
49	19	21	黒川 清	特定非営利活動法人 日本医療政策機構	代表理事	その他、がんの実態把握とがん情報の発信等に関する特に重要な研究
50	19	21	手島 昭樹	大阪大学大学院 医学系研究科	教授	がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

平成19年度厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)採択課題一覧

<継続課題>

【一般公募型】

No.	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
1	17	19	齊川 雅久	国立がんセンター東病院 外来部	頭頸科医長	頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究
2	17	19	大西 一功	国立大学法人浜松医科大学 医学部付属病院	教授	難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究
3	17	19	内藤 誠二	九州大学(大学院医学研究院泌尿器科学分 野)	教授	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究
4	17	19	堀部 敬三	国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター	センター長	小児造血器腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究
5	17	19	洪井 壮一郎	国立がんセンター中央病院 第二領域外来部脳神経外科	医長	悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究
6	17	19	岩本 幸英	九州大学大学院 医学研究院整形外科	教授	高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究
7	17	19	安藤 敏敏	東京歯科大学 市川総合病院	副院長	第Ⅳ期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究
8	17	19	白尾 国昭	国立がんセンター中央病院 総合診療部	17B病棟医長	がんの腹膜播種に対する標準的治療法の確立に関する研究
9	17	19	福岡 正博	近畿大学医学部 内科学腫瘍内科部門	教授	切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究
10	17	19	青木 大輔	慶應義塾大学医学部 産婦人科	教授	子宮体がんに対する標準的治療法の確立に関する研究
11	17	19	藤田 伸	国立がんセンター中央病院 大腸外科第一領域外来部	医長	臨床病期Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験
12	17	19	武藤 学	国立がんセンター東病院外来部/ 臨床開発センターがん治療開発部	消化器科医長	早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究
13	18	20	澤 智博	帝京大学国際教育研究所	助教授	症例登録を踏まえた病院共通のコンピュータシステムの開発とコストに関する研究
14	18	20	竜 崇正	千葉県がんセンター	センター長	症例登録を踏まえた病院共通のコンピュータシステム開発とコストに関する研究
15	18	20	渡辺 敏	千葉県がんセンター緩和医療科	部長	在宅医の早期参加による在宅緩和医療推進に関する研究
16	18	20	江口 研二	東海大学医学部付属病院	教授 オンコロ ジーセンター長	在宅医の早期参加による在宅緩和医療推進に関する研究
17	18	20	金子 昌弘	国立がんセンター中央病院	副院長	悪性胸膜中皮腫の病態の把握と診断法、治療法の確立に関する研究
18	18	20	上 昌広	東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマン ネットワークシステム部門	助教授	がん臨床研究に不可欠な症例登録を推進するための患者動態に関する研究
19	18	20	安藤 正志	国立がんセンター中央病院第一領域外来部	医師	HER2過剰発現を有する乳がんに対する術前Trastuzumab化学療法のランダム化第Ⅱ相比較試験
20	18	20	中村 清吾	NPO法人日本乳がんネットワーク	代表理事	乳癌診療におけるグローバルスタンダードの導入と質の評価検討に関する研究
21	18	20	嘉山 孝正	山形大学医学部付属病院脳神経外科	医学部長 脳神経外科教授	高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究
22	18	20	西脇 裕	国立がんセンター東病院臨床検査部	臨床検査部長	再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究
23	18	20	嘉村 敏治	久留米大学医学部	教授	進行・再発子宮頸癌に対する標準的治療法の確立に関する研究
24	18	20	門田 守人	大阪大学医学系研究科	教授	進行肝細胞癌に対する集学的治療法の確立に関する研究
25	18	20	北野 正剛	大分大学医学部外科第1	教授	進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究
26	18	20	平岡 真寛	京都大学大学院医学研究科	教授	定位放射線治療による予後改善に関する研究
27	18	20	石川 鎮清	自治医科大学地域医療学センター	講師	各自自治体が行っているがん対策関連政策の調査に関する研究～地域の中小医療機関を中心とした調査研究～
28	18	20	今井 博久	国立保健医療科学院疫学部	部長	自治体におけるがん対策の現状分析とマネジメントシステムの構築支援に関する研究
29	18	20	石川ベンジャミン光一	国立がんセンター がん対策情報センター	室長	レセプトデータダウンロード方式を利用したがん診療施設の医療水準の評価に関する研究
30	18	20	坪井 栄孝	日本医療機能評価機構	理事長	医療機関がん診療機能の客観的・第三者評価標準システムに関する開発研究
31	18	20	宇田 淳	広島国際大学医療福祉部	助教授	がん拠点病院の配置シミュレーションに関する研究
32	18	20	津熊 秀明	大阪府立病院機構大阪成人病センター調査部	課長	がん患者の医療機関受診に関する動態調査
33	18	20	下山 直人	国立がんセンター中央病院 手術部	部長	緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究
34	18	20	雨宮 隆太	茨城県立中央病院茨城県地域がんセンター	センター長	相談内容の分析等を踏まえた相談支援センターのあり方に関する研究
35	18	20	祖父江 友孝	国立がんセンターがん対策情報センター	部長	がん対策における管理評価指標の策定とその計測システムの確立に関する研究
36	18	20	松野 吉宏	国立がんセンター がん対策情報センター	室長	遠隔診断の技術を用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究

【若手育成型】

No.	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
37	18	20	湯地 晃一郎	東京大学医科学研究所附属病院内科	助手	通院治療・在宅医療等、地域に根ざした医療システムの展開に関する研究
38	18	20	秋月 伸哉	国立がんセンター東病院 臨床開発 センター精神腫瘍学開発部	心理社会 科学室長	地域に根ざしたがん医療システムの展開に関する研究
39	18	20	武村 真治	国立保健医療科学院公衆衛生政策部	室長	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究
40	18	20	原 めぐみ	佐賀大学医学部	助手	がん予防に資する未成年等における包括的たばこ対策に関する研究

<新規課題>

【一般公募型】

No.	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
41	19	21	片井 均	国立がんセンター中央病院総合病棟部	医長	がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究
42	19	21	木澤 義之	筑波大学大学院人間総合科学研究科	講師	がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究
43	19	21	加藤 抱一	国立がんセンターがん対策情報センター	センター長	がん医療の均てん化に資するがん診療連携拠点病院の機能強化に関する研究
44	19	21	宮下 光令	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻成人看護学/緩和ケア看護学分野	助手	がん患者のQOLを向上させることを目的とした支持療法のあり方に関する研究
45	19	21	山口 達	静岡県立静岡がんセンター	総長	WEB版がんよらず相談システムの構築と活用に関する研究
46	19	21	山本 精一郎	国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部	室長	生活習慣や支持療法等が乳がん患者のQOLに与える影響を調べる多目的コホート研究
47	19	21	明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科	助教授	がん患者に対するリエゾンの介入や認知行動療法的アプローチ等の精神医学的な介入の有効性に関する研究
48	19	21	保坂 隆	東海大学医学部基礎診療学系	教授	がん患者や家族が必要とする社会的サポートやグループカウンセリングの有効性に関する研究
49	19	21	大野 ゆう子	大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション科学講座	教授	タイムスタディ等の定量的な検討を踏まえたがん医療における専門スタッフの効果的な配置や支援のあり方に関する研究。
50	19	21	林 謙治	国立保健医療科学院	次長	たばこ対策による健康増進策の総合的な実施の支援かつ推進に関する研究
51	19	21	小松 恒彦	帝京大学第3内科	助教授	がん医療における医療と介護の連携のあり方に関する研究
52	19	21	藤本 純一郎	国立成育医療センター研究所	副所長	小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究
53	19	21	岡村 純	国立病院機構九州がんセンター臨床研究部	部長	成人T細胞白血病(ATL)に対する同種幹細胞移植療法の開発とそのHTLV-1排除機構の解明に関する研究
54	19	21	小菅 智男	国立がんセンター中央病院	第二領域 外来部長	切除可能胆道領域がんに対する補助療法の研究
55	19	21	笹子 三津留	国立がんセンター中央病院	副院長	進行胃がんの生存率を向上させる標準的治療法の開発に関する研究
56	19	21	佐野 武	国立がんセンター中央病院	医長	胃上部癌手術における脾合併切除の意義に関する研究
57	19	21	田村 友秀	国立がんセンター中央病院	総合病棟 部長	限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
58	19	21	中塚 貴志	埼玉医科大学病院形成外科	教授	生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手術の標準化
59	19	21	福田 隆浩	国立がんセンター中央病院特殊病棟部	医長	治療関連合併症を減少させて同種造血幹細胞移植後の生存率の向上を目指す標準的治療法の開発研究
60	19	21	堀田 知光	国立病院機構名古屋医療センター	院長	悪性リンパ腫に対する免疫化学療法最適化による新たな標準的治療の確立
61	19	21	森谷 亘雄	国立がんセンター中央病院特殊病棟部	部長	再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法の確立に関する研究
62	19	21	奥坂 拓志	国立がんセンター中央病院内科	第一領域外来部 胆膵臓科医長	切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究
63	19	21	押味 和夫	順天堂大学医学部血液内科	教授	NK細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究
64	19	21	加藤 知行	愛知県がんセンター中央病院	病院長	大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究
65	19	21	牧本 敦	国立がんセンター中央病院 第二領域外来部小児科	医長	再発小児固形腫瘍に対する塩酸/ジテカンとイホスファミド併用療法の第I/II相臨床試験
66	19	21	森 慎一郎	国立がんセンター中央病院臨床検査部	医長	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究
67	19	21	森島 泰雄	愛知県がんセンター中央病院	副院長	進行期難治性B細胞リンパ腫に対する大量化学療法を併用した効果的治療に関する臨床研究
68	19	21	吉川 裕之	筑波大学大学院人間総合科学研究科	教授	進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究
69	19	21	中川 和彦	近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門	助教授	原発不明がんの診断・効果的治療の確立に関する研究
70	19	21	勝俣 範之	国立がんセンター中央病院第一領域外来部第二通院治療センター	医長	がん領域における薬剤のエビデンスの確立を目的とした臨床研究
71	19	21	池田 均	獨協医科大学医学部	教授	神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化および新規診断・治療法の開発研究
	開始	終了	主任研究者	所属施設	役職	研究課題名
72	19	21	和田 恵典子	大阪府立大学	講師	がん患者の意向による治療方法等の選択を可能とする支援体制整備を目的とした、がん体験をめぐり「患者の語り」のデータベース